

しあわせの願いに生きる

所長 西本 照真



2016年7月に Musashino University Creating Happiness Incubation（武蔵野大学しあわせ研究所）が設立されて、一年半が過ぎました。おかげさまで、学内外の100名を超える研究員の皆さまにご参加いただき、本学のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を具現化するための研究・教育活動に熱心に取り組んでいただいています。今年度は18の学際的な研究プロジェクトが進行中であり、あわせて「武蔵野大学しあわせフォーラム」、学生対象の「しあわせゼミ」、生涯学習「しあわせ特別講座」など多様な活動が展開されています。2018年2月には第2回国際シンポジウムも開催される予定です。

先日、12月8日～10日まで、シンガポール国立大学で ICOT2017（The International conference on Orange Technologies）が開催され、基調講演を行ってきました。環境に優しい Green Technology に対して、人間がより良く、幸せに生きるための Technology を Orange Technology と位置づけ研究が進められています。講演では、皆さまにご準備いた

いた研究プロジェクト紹介資料をもとに本研究所の活動紹介を行いました。それぞれのユニークな研究活動と、大学全体として「幸せ」を中心テーマに掲げて教育・研究を行っていることに参加者の熱い関心が寄せられました。あわせて、仏教、儒教、老荘などアジアの諸思想から導き出される人間観の特質について、①有限性、一回性、不確定性、②自己中心性と欲望、③無限の関係性と統一性、④他者への共感と利他性、の4点にわたって報告しました。

本学の新ブランド「世界の幸せをカタチにする。」を具現化していく上で、「世界」とは何か、「幸せ」とは何か、「世界は、幸せか」が問われなければなりません。自分だけが、人間だけが幸せになるのではなく、生きとし生けるものすべてが、地球環境も含めて、幸せであることを願い続け、そのために学び、研究し、実践し続けることに本学に集うものの使命があると考えます。『維摩経』の一節に、「一切の衆生病むをもつての故に、我れ病む。もし一切の衆生の病滅すれば、すなわち我が病も病む」とあるとおりです。

2017年度の大学ブランディング事業における本研究所のしあわせ研究の採択はなりませんでしたが、2018年度に向けてさらに旺盛な研究・教育活動を展開していきたいと考えています。皆さまの引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。